

令和5年5月 12 日

上之郷地区リニアトンネル残土を考える会  
会長 瀬藤 健史 様

御嵩町長 渡邊 公夫



「リニア発生土置き場に関するフォーラム」について総括を求める要望書への回答書

令和5年4月 21 日付けで貴会よりいただきました『「リニア発生土置き場に関するフォーラム」について総括を求める要望書』については、以下のとおりお答えします。

記

はじめに、過日開催しましたリニア発生土置き場に関するフォーラム(以下「フォーラム」と言います。)におきましては、長きにわたりご出席いただき、また、貴重なご意見を頂戴致しましたこと厚く御礼申し上げます。

まず、フォーラムの開催につきましては、貴会よりご指摘のとおり、町民の皆様の不安解消と置き場計画への理解促進を図ることを目的として行ってきました。リニアの早期開通を期待する多くの声をいただく中、沿線市町は国や県と一丸となり、少しでも早くリニア開通による利便を皆様に実感していただけるよう、JR東海に協力できるものはすべきと考えています。しかし、地元工区から排出される要対策土は自然由来の土とはいえ、町外にも引き受け希望が見つからない現状においては、町長として安全を確保する責任のもと、町民不在の議論ではなく、情報をオープンにした町民参加による協議が「御嵩スタイル」との信念に従いフォーラムを開催することに致しました。この問題は非常に難しく、悩ましい限りではありますが、皆様の理解を得た上で答えを出すことが町長としての仕事だと考えたからこそ、フォーラムでは多くの皆様にご参加いただけるようご案内も繰り返し、また、お招きした有識者には皆様が不安に感じることを具体的にご質問いただけるよう呼びかけ、質問時間もできるだけ設けるなど、限りあるフォーラムの時間を有効に、目一杯活用できるよう配慮して進めてきました。

なお、ご指摘のフォーラム開催にかかる公費は、町の主催事業を実施するにあたり、打合せを含むスタッフや資機材の準備、事後フォロー等、運営補助の委託費としての支払いがほとんどであり、その他、有識者への限られた支払い等に充てたものです。

フォーラムでは、有識者から助言をいただくことで、置き場計画が現在、通常用いられる科学的基準に適合しているか、またより良い方法を見つけることができないか等を確認することができました。また、リニア以外にも目を広げると、国内においては本町が提案を受けている工法の実績が一般的にあることも確認致しました。もちろん、超長期の視点や完全性の観点に立てば、有識者から科学的実績を言及いただけないこともありましたが、その点においては、町がJR東海に求める科学

的基準は今後、他の事業者にも同様に求める水準とするべきであり、かつ、立証できない説明をJR東海に求めることはできないため、協定締結等を通じた保証の確保で対応すべき部分が残っていると考えています。

なお、JR東海から、町及び町民に対して事前にここまでの説明を受けている自治体はないのではないかと自負しています。その意味において、フォーラムはご参加いただいた全ての皆様にとりまして判断の拠りどころとなる根拠や説明の機会を一定程度引き出せたものと捉えています。一方で、フォーラムの結果は毎回、町ホームページ上には動画や議事録の掲載等を通じて誰もが視聴できるよう配信し、また、新聞やテレビ等の報道でも大きく取り上げられてきましたが、かつての産業廃棄物処理施設問題のように、他の町民の方から目立った反対の声が広がって聞こえていないことも、また事実です。もちろん喜んで賛成する訳ではない方々だと思いますが、自町からの発生土ということもあって、仕方ない、しっかり安全を確保してほしい、という理解や考えの方が多数であるという認識はおかしくないものと思っています。

しかしながら、第6回フォーラムでは、貴会から「危険な残土持ち込み反対」の声を決議文書として頂戴致しました。これは地元の声として、JR東海の置き場計画は安心できない、信頼できないという声だと重く受け止めることも、また必要と考えています。町は、JR東海には前述のとおり、立証できない説明を求めることはできませんが、置き場計画に変更なく引き続き理解を求めるのであれば、事業主体者として説明できるものは分かりやすく丁寧にかつ詳細に説明するよう求めていく立場にいます。

お求めのありました先送りの理由と総括についてですが、フォーラムは、置き場計画が妥当性を持って安全に成されるのか十分に確認ができた町が判断できるまでは判断を保留し、JR東海から計画の説明を受け、更なる対策の求めに対する再説明とその再確認を繰り返す協議サイクルによって結論を出すために行ってきたものです。現在の立ち位置としては、フォーラムの中で十分に安全だと判断するに足る段階には至っていません。また、重要湿地など環境保全の側面からも引き続きJR東海に説明や報告を求めなければならない部分と共に、保証の確保である協定書の内容など、町としても自らの判断のもと決定が必要な部分が積み残しているものと考えています。

従って、置き場計画を受入れ前提として議論を開始しましたが、明確な判断を致せない以上は現在のスタンスを維持して議論を続けることが妥当であること、また、町長としての残された任期も少ない中では、拙速な判断は見合わせるべきであり、町政の今後に与える影響にも勘案し、慎重にもう少し時間をかけた方が良く考えたことが、判断を先送りした理由です。

是非ご理解賜りますようお願い申し上げます。

令和5年4月21日

御嵩町長 渡邊公夫 様

上之郷地区リニアトンネル残土を考える会  
会長 瀬瀬健史

「リニア発生土置き場に関するフォーラム」について総括を求める要望書

フォーラムは討議を通じて結論を出す会議です。そして、町長の提案に基づき設置された掲題フォーラムは、町民の不安解消と置き場計画への理解促進を図ることが目的とされています。我々上之郷リニアトンネル残土を考える会（以下、本会という）は、この定義と目的を前提に、周辺及び地区住民の立場で勉強し、会場や現地に足を運び、本会会議並びにフォーラムにおいて討議を重ね、会員への情報の還元や意見を集約して時限の中で計画反対の決議を表明してフォーラムの総括としました。詳細は最終回フォーラムでお渡しした決議書の通りです。

フォーラムに対する本会の取組みの一方で、渡邊町長は、最終回を前に既にご自身の引退表明とともにリニア残土問題の先送りを表明されており、この先送りがあたかもフォーラムの結論のような扱いで、徒に時間だけが流れている状況は誠に遺憾です。フォーラムを提案し設置したのは町長です。フォーラムの目的は町民の不安解消と計画に対する理解促進です。また、このフォーラムでは、受け入れない場合もあるとされてきました。フォーラムを終えて、町長が自ら町民の理解が得られなかったことを認め、事業者も町民の理解が得られていないことが分かったとした以上、結論は明らかです。これを先送りする理由が分かりません。フォーラムの定義と目的において公式にお答え下さい。

そして、このフォーラムには、町の負担として約6百万円の公費及び多大な人員とその労力と時間が費やされています。さらに、受入れが前提となって既に事前の水質検査にも町の負担が生じています。受入れを前提に協議の窓を開いたのは町長です。これに与って説明の機会を得たのは事業者です。事業者はこれだけのお膳立てを得ながら自らの計画を説明し切れませんでした。町民の計画への反対がある上において、区切りが必要なフォーラムを総括なしで、また、総括に合理性が認められないまま町が先送ることは、これまでの町の負担を事業者の不当な利得に振り替えたことと同じです。

このままでは、受入れ前提の協議に基づくフォーラムは、受入れを予断とした説明会だったとの誹りを免れません。先送りの言葉にその思いを一層強くするところです。早期に先送りの理由とフォーラムの総括の公表をお願い致します。

以上

